



広報

にのみや

昭和51年1月 157号

発行 二宮町役場 企画課
編集 二宮町広報編集委員会
0463 (72) 1811 (代表)
所在地 中郡二宮町二宮 919番地
電話 0463 (71) 0767 (代表)

夜明け 吾妻山より相模湾を望む



二宮町長

柳川賢二

明けましておめでとうございます。

みなさまご家族おそろいで、昭和五十一年の新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

近年、わが国経済の高度成長に終止符が打たれ、不況とインフレーションの波は国民生活に大きな打撃を与えています。

二宮町においても、昨年来よりの財政状況は非常にきびしいものがあり、経常的な経費や事業の必要緊急度を十分に洗い直し、節約し、少しでも多くの費用を重点的な事業にまわしてゆかねばなりません。毎年、前年にプラスアルファして、安易に収入支出を予定する慣習をまず改めるべく、役場職員に訴え、役場の姿勢を正し、合理化につとめつつあります。

さく年、町は町制施行四十周年記念の諸行事を実施いたしました。

一口に四十年と申ししましても、人口では昭和十年当時の約八千二百人、千六百世帯から、現在では二万五千人、六千七百世帯に増加し、半農半漁の村から住宅地へと大きく変ぼうしています。

このような町の形態の変化が、前に述べました財政事情の悪化にもかかわらず、多種多様な事業の必要性を物語っているといえます。

一つには教育施設の拡充があり、第三小学校（仮称）第二中学校（仮称）の建設をはじめ、開校を昭和五十二、三年にもと県立高校の用地問題等、お子さんが教育にふさわしい環境で勉強できる施設を一日も早く整備しなければなりません。

また、関係者、地域住民の多大なご協力をいただき、さく年秋に着工した衛生センターも本年十二月までには完成しなければなりません。南北駅前広場の整備、橋上駅舎、通行路問題等、数多くの事業がひかえておりますが、私をはじめ職員一同、一丸となって問題の処理にあたりますので、住民各位におかれても、限らないご指導とご協力をお願い申し上げます。

みなさまのご健康とご多幸を心からお祈りいたし年頭のごあいさつにかえる次第です。



「丁つ花」

対比)
96人
52人
34人
52世帯

※本日は国勢調査概数から世帯移動、人口動態を増減し調整しました。